

GJS-ERIの国際連携

概要

大阪大学は、人文学研究科日本学専攻、日本語日本文化教育センターをはじめ、各部署に、全国有数の規模で、日本に関係する教育・研究を行っている研究者を擁しています。この人的リソースを部局横断的に組織化し、より高度な教育・研究を学際的・国際的・社会学連携的に展開することにより、日本に関係する教育・研究の拠点化を図ることが、大阪大学グローバル日本学教育研究拠点の目的です。なかでも、国際的な教育研究ネットワークの構築と拠点形成が本拠点の重要な役割です。そのような新たな学術プラットフォームとして「グローバル日本学」を構築し、「日本」からグローバル・アカデミアに向けた研究発信力の強化を達成することを目指して、国際連携の強化に取り組んでいます。

世界における日本研究と本拠点の位置づけ

当然のことながら、日本研究は、日本においてのみ行われているわけではありません。世界には、日本研究、あるいは日本研究を含むアジア研究を主題とする国際的な学会が、地域ごとに存在しています。日本研究の博士後期課程を擁する拠点的な教育研究機関は、北米・(英国を含む) 西欧・オーストラリア・東アジアに多数ありあす。北米・(英国を含む) 西欧での日本研究の国際的対話は英語を基本としており、東アジアでの日本研究の国際的対話は日本語ベースで行われることが一般的です。

本拠点がグローバルな教育研究拠点としての使命を達成するため、このような国際的学術環境のなかで緊密なネットワークを構築し、そのハブとなりプレゼンスを発揮することが求められています。本拠点ではこれまで、北米とヨーロッパにおける国際的な教育や研究の主要な拠点となっている大学の部局や研究センターと学術交流協定を締結してきました。



国際的ネットワーク構築に向けた今年の取り組み

本拠点では、すでに述べた国際的学術環境のなかでプレゼンスを発揮するために、年1回の国際シンポジウムや月1回のワークショップの開催、国際的共同研究の公募・採択・支援、国際的研究発信力を高めるための教育プログラムの運営などの事業を行っています。左下の地図では、これらの活動を通して構築しつつある国際的ネットワークを視覚化しています。

そのようななかで、今年は東アジアや北米・ヨーロッパにおける日本研究の国際的な拠点との連携強化に努めながら、本拠点の国際ネットワークのさらなる発展に注力しました。東アジアの教育研究機関との連携においては、東アジア日本研究者協議会へのかかわりを軸に展開しました。同協議会は、東アジアを中心とした国々の日本研究者に国際的な研究発表、議論と交流の場を提供することを目的にしています。そこで今年は、6月22日に韓国・ソウル大学で開催された特別運営委員会や、11月8日から10日にかけて台湾・淡江大学で開かれた第8回国際学術大会の運営委員会に出席し、台湾、韓国、中国や日本の大学や研究機関等の参加者とともに東アジアにおける日本研究の現状と展望について議論をしながら、同地域でのネットワーク強化を図りました。北米・ヨーロッパ地域においては、2024年9月6日にブリティッシュ・コロンビア大学アジア学科と部局間学術交流協定を締結し、2024年10月21日にはハイデルベルク大学哲学部東アジア学センター（日本研究所）とも部局間学術交流協定を締結しました。

さらに7月には、ブリティッシュ・コロンビア大学とハワイ大学マノア校の先生方を迎えて月例ワークショップを開催しました（詳細に関して本レポートの44-46頁、52頁を参照）。これを機会に、本拠点とブリティッシュ・コロンビア大学（締結済み）やハワイ大学との連携を進めていくための方針について相談しました。

今後の展望

北米・西欧や英国・オーストラリア・東アジア以外の地域では、修士課程までしか日本研究のプログラムがない機関も多く、それらの地域においては、日本研究はまだ発展途上にあるといえます。本拠点は、日本研究が発展しつつある中南米の機関や研究者と積極的に連携しようとしています。そこで、12月にはメキシコ大学院大学 (El Colegio de México) の先生を迎えて月例ワークショップを開催しました。その際、先生に講演をしていただき、同大学の大学院生との研究交流ワークショップを行いました（講演要旨に関しては47-49頁を参照、月例ワークショップに関しては54頁を参照）。アジア研究関連の博士課程を置いているメキシコ大学院大学をはじめ、中南米の主要な日本研究機関とのネットワーク構築は、本拠点のグローバルな展開を新たな方向へ発展させる独自性を発揮しうるものと考えています。